【公報種別】特許法第１７条の２の規定による補正の掲載
【部門区分】第６部門第１区分
【発行日】平成28年4月7日(2016.4.7)

【公開番号】特開2014-163801(P2014-163801A)
【公開日】平成26年9月8日(2014.9.8)
【年通号数】公開・登録公報2014-048
【出願番号】特願2013-35139(P2013-35139)
【国際特許分類】
Ｇ０１Ｂ　11/275　(2006.01)
Ｇ０１Ｄ　5/38　(2006.01)
【ＦＩ】
Ｇ０１Ｂ　11/275　Ｈ
Ｇ０１Ｄ　5/38　Ａ

【手続補正書】
【提出日】平成28年2月23日(2016.2.23)
【手続補正１】
【補正対象書類名】特許請求の範囲
【補正対象項目名】全文
【補正方法】変更
【補正の内容】
【特許請求の範囲】
【請求項１】
均等な角度間隔で放射状に形成されたパターンが形成されているディスクと、該ディスクを保持し回転させる回転機構との間に生じる偏芯を検出する偏芯検出装置であって、
前記パターンに光を照射する光照射部と、
前記光が前記パターンにて回折した回折光を検出する検出部と、
前記回転に伴う前記検出部が検出する前記回折光の受光位置の変動に基づいて前記偏芯を検出する処理部と、
を有することを特徴とする偏芯検出装置。
【請求項２】
前記処理部は、前記検出部が検出した前記受光位置から前記回折光の回折角を求め、前記回折角の変動に基づいて前記偏芯を検出することを特徴とする請求項１に記載の偏芯検出装置。
【請求項３】
前記処理部は、前記受光位置に基づいて、前記パターンのパターン中心と、前記回転機構の回転中心との間の偏芯量を検出する、
ことを特徴とする請求項２に記載の偏芯検出装置。
【請求項４】
前記処理部は、前記偏芯量に基づいて前記偏芯の振幅を求め、
前記振幅と、予め定められた許容値としての基準振幅とを比較することで、前記偏芯が許容範囲にあるか、または前記許容範囲を超えているかを判断する、
ことを特徴とする請求項３に記載の偏芯検出装置。
【請求項５】
前記処理部は、前記受光位置に基づいて、前記偏芯が許容範囲にあるか、または前記許容範囲を超えているかを判断する、
ことを特徴とする請求項２に記載の偏芯検出装置。
【請求項６】
均等な角度間隔で放射状に形成されたパターンが形成されているディスクと、該ディス

クを保持し回転させる回転機構との間に生じる偏芯を検出する偏芯検出方法であって、
前記パターンに向けて光を照射し、前記パターンにて回折した回折光を検出する工程と、
前記回転に伴う、前記検出された回折光の受光位置の変動に基づいて前記偏芯を検出する工程と、
を含むことを特徴とする偏芯検出方法。

【手続補正２】
【補正対象書類名】明細書
【補正対象項目名】０００６
【補正方法】変更
【補正の内容】
【０００６】
上記課題を解決するために、本発明は、均等な角度間隔で放射状に形成されたパターンが形成されているディスクと、ディスクを保持し回転させる回転機構との間に生じる偏芯を検出する偏芯検出装置であって、パターンに光を照射する光照射部と、光がパターンにて回折した回折光を検出する検出部と、回転に伴う検出部が検出する回折光の受光位置の変動に基づいて偏芯を検出する処理部と、を有することを特徴とする。